

「愛知の児童文化」資料集（その2）

文化科学研究所児童文化研究グループ

これまで『愛知県史』をはじめ、県内におけるほとんどの市町村では、〈史誌〉が刊行されている。また近年では地域文化重視の時代をふまえ、それぞれの郷土に関する著作も多く出版されている。だがこうした著作物のなかには〈子どもの文化〉に関する情報はほとんど含まれていない。本来〈子どもの文化〉は未来に連なる〈国民文化〉の礎をなし、文化変容と形成のうえで重要な核となるが、軽視されがちとなっている。

本研究所児童文化班では、こうした状況のなかで愛知県内の〈子どもの文化〉を見直すとともに、地域研究の一端として過去を振りかえりながらも、現在、〈子ども文化〉の実態がどのようになっているかについて調査し、ひとまず研究上の基礎資料としてここにまとめることとなった。

次は資料全体の主な構成である。

1. 児童文化関連施設（歴史・民俗・自然・産業・科学・芸術・芸能・スポーツ・遊びなど）
2. 児童文化団体（文学・演劇・舞踊・音楽など）
3. 文化人名（作家・詩人・評論家・研究者・翻訳家・劇作家・作曲家・演出家・活動家など）
4. 事項（児童文化に関する重要な事項）

上記のうち、この号には「児童文化関連施設」の「産業（一部）・科学・芸術・芸能・スポーツ・遊び・その他」の部を掲載する。その選択にあたっては、児童のための固有な施設でなくとも、子どもたちにとって有益な直接体験・間接体験になりうる施設をも含めた。施設の配列については地域別とし、尾張地区から三河地区へ、北から南へと順に並べた。掲載した施設以外にも、子どもの体験にとって有益な施設があると思われるので、そのような場合にはどうぞご推挙ください。検討して、後日誌上にて〈補填〉させていただきます。なお、執筆にあたっては、人物名については敬称を省略した。また各施設刊行の諸著作物を参考にさせていただいたし、多くの方々に取材協力をしていただいた。末尾ながら感謝の意を表したい。

執筆者（所員） 原 昌（準所員）磯部孝子、熊沢順子、新居正子、服部裕子
（調査員）今井美都子 岩本 寂、高木孝子、夏目いずみ、山田 泉
（執筆協力者）伊藤優子、柏原正尚、近藤洋子、遠山光嗣

〈産業の部〉

青柳総本家 あおやぎそうほんけ

ういろう（外郎）は、もとは黒砂糖を用いた茶菓子的一种であって、形・外観・色合いが葉の外郎透頂香（ういろうとうちんこう）に似ていたことから外郎餅（ういろうもち）と呼ばれるようになり、各地で作られた。とくに、山口、京都、小田原、名古屋が名産と言われる。

ういろうが、名古屋名物として日本中に知られるようになったのは、第二次大戦後のことで、青柳ういろうの発展によってであった。青柳の創業は1879年（明12）で、後藤利兵衛が尾張藩主徳川慶勝から「青柳」の屋号を贈られ、名古屋大須に開業した。昭和初期になって積極的に宣伝・販売に努めた。1963年（昭38）には業界で初めてういろうのオートメーション化に成功、量産化と長期保存を実現。翌64年から新幹線での車内販売を開始した。

工場見学では、ういろうの歴史、原料の調達、製法、流通について学習できる。一般の団体のほか、子どもたちについては犬山市内の小学校3年生の社会見学を受け入れている。

所在地 犬山市大字羽黒新田字中平塚1-8
☎ (0568) 67-1271 無料（団体のみ受付、要予約）
アクセス 名鉄「楽田」駅
[参考資料] 『青柳百年誌』（同総本家刊）

瀬戸市歴史民俗資料館 せとしれきしみんぞくしりょうかん

1963年（昭38）、瀬戸市は、国の緊急民俗資料調査を契機に、時代の変化につれて消滅

しつつある陶磁器の生産用具、および製品を中心とした民俗資料の調査・収集を開始。火災による焼失を経験したが、3,943点の重要有形文化財を含む多くの資料を収集し、1978年（昭53）に、県下初の歴史民俗資料館として開館した。もともと瀬戸市は、良質の陶土に恵まれていて、そのやきものの歴史は古く、約1000年前の平安時代中期から生産が始められ、盛んとなった。「せともの（瀬戸物）」が陶磁器一般の通称として使われるのもその証しといえる。

世界にも日本にも陶磁器を数多く集めた資料館・博物館はあるが、この資料館のように陶磁器に関して、生産工程毎に、近世・近代の手作業で用いられた道具を含む資料をこのように数多く、しかも体系的に収蔵・展示するところは世界でも珍しい。

第一展示室には、陶磁器の生産工程を採土・製土・成形・絵付・施釉（せゆう）・焼成などの順に、9工程に分けてわかりやすく展示してある。第二展示室では、瀬戸焼の変遷を数々の陶磁器製品によって辿ることができる。

所在地 瀬戸市東松山町1
☎ (0561) 82-0687 有料
アクセス 名鉄「新瀬戸」駅、または愛知環状鉄道「瀬戸市」駅
[参考資料] リーフレット・パンフレット類（同資料館刊）

問屋記念館 とんやきねんかん

市場町としての西枇杷島の歴史は、江戸時代の初期に、徳川家康の命によりこの地に「下小田井の市」（しもおたい いち）が開かれたことに始まる。西枇杷島は「江戸の神田」「大阪の天満」と並び、日本三大市場の一つとして栄えた。〈市〉は時代とともに近代市場へと発展、1955年

(昭30)に名古屋市へ移転した。

西枇杷島が市場として適していたのは、ここが江戸時代、中山道(なかせんどう たるいじょく)と東海道(熱田の宮)をむすぶ美濃路筋にあり、しかも枇杷島橋が掛けられ、人々の往来が盛んで、町並みも形成されつつあったからである。

問屋記念館は、「下小田井の市」の創始者の一人といわれる山田九左衛門家の住居で、この建物自体は明治の初期に建てられたものだが、江戸時代の問屋の形態を残す町家である。移築されたこの場所も、また古い美濃路の雰囲気を残す街路沿いにある。子どもたちは、間口にくらべ奥行き深い建物の内部や、青果問屋の商いと暮らしの様子を知り、美濃路と西枇杷島の歴史の一端に触れることができる。

所在地 西春日井郡西枇杷島町西六軒町20

☎ (052) 502-7575 無料

アクセス 名鉄「西枇杷島」駅

[参考資料] リーフレット類(同記念館刊)

産業技術記念館 さんぎょうぎじゅつきねんかん

若い人たちに「モノづくり」とそれに必要な「研究と創造」の大切さや素晴らしさを理解してもらう目的で、トヨタグループ13社により、1994年(平6)に創設された。

特徴としては、トヨタグループの携わってきた繊維機械や部品などをわかりやすく紹介している。展示物は約3千点あって動態展示を基本としている。したがって機械を動かして物づくりが目の前で見ることができ、解説ビデオで補っている。

子どもたちは、機械のスイッチを押して展示のロボットなどの各種機械や、機械のしくみを見せる機構モデルを、おのずから動かす

ことができる。なかでも「テクノランド」では、繊維機械や自動車などに使われている基本的な原理・機構を遊びながら体験できる。

このテーマ館には14のコーナーがあり、自由に参加ができる。また図書館には産業・技術に関する本が約3万冊所蔵され、そのなかには子どもたちが楽しんで読める本が多くある。ビデオライブラリーでは、自動車を中心としたビデオ約230本が用意されていて、自由に見ることができる。

また、「モノづくり」をテーマにした子ども向けイベントを年2、3回実施している。

所在地 名古屋市西区則武新町4-1-35

☎ (052) 551-6115 有料

アクセス 名鉄「栄生」駅

七宝町郷土資料館 しっぽうちょうきょうどしりょうかん

町名の由来ともなっている郷土産業の七宝焼のあゆみと、古文書などの歴史資料、人々の生活に基づいた資料などを展示するために、1981年(昭56)に七宝町によって開設された。

展示室には江戸時代末期から昭和初期までの古代七宝、戦前まで使われた焼成炉・釉薬炉・道具などの展示と、七宝焼の工程をも見せている。また隣接する産業会館には、優れた作品が多数展示即売されている。

七宝焼は、英語のエナメルに相当し、金属と色のついたガラス質のうわぐすり(色釉)との複合工芸で、すでに古代エジプトやケルトに同類の技術が見られる。日本では、古墳の出土品や正倉院の御物のなかに七宝が見られる。とくに七宝焼は安土桃山時代以降に盛んとなるが、いずれも手法が現在のものと異なっている。

近代の七宝は、1830年代（天保年間）に海東郡服部村（現在、名古屋市中川区富田町）の梶常吉によって再興された。梶はオランダ船が持ってきたという1枚の七宝皿を破碎し、その技法を研究した。近隣の同郡遠島村（現在、七宝町）に住んでいた林庄五郎がその技術を受け継ぎ、さらに塚本貝助らに伝えた。その間にさまざまな技法が工夫され、来日していたドイツ人化学者ワグネルとの研究成果も加わって、今日の精巧で華麗な七宝焼が誕生した。京都や東京の七宝にも影響を与えた。

所在地 海部郡七宝町大字遠島字十坪 119-3
☎ (052) 443-3033 無料
アクセス 名鉄「七宝」駅
[参考資料] 『七宝焼』(同町教育委員会刊)・リーフレット類(同資料館刊)

有松・鳴海絞会館 ありまつ・なるみしぼりかいかん

有松絞り 400年の歴史と文化の保存と発展のために、1984年（昭59）有松絞商工協同組合によって創設された。有松絞りは、江戸時代の初期、竹田庄九郎らによって始められ、尾張藩がこれを藩の特産品として保護した。絞りの手拭、浴衣などが旅人の土産として好評を博し、「街道一の名産品」といわれた。

現在も有松・鳴海絞りは、日本の絞り生産量のうち90%以上を占める。会館1階では、絞り製品の展示と販売、2階には、歴史的工芸的価値のある製品の資料展示があり、体験実習もできる。秋には、県内小・中学校の社会見学で、大勢の子どもたちが訪れ、ハンカチ制作を実習していく。

毎年6月に開かれる「有松絞りまつり」は伝統の日本建築美を持つ商家の軒先に、絞り製品が並び、買物客でにぎわう。

所在地 名古屋市緑区有松町橋東南 60-1

☎ (052) 621-0111 有料

アクセス 名鉄「有松」駅

[参考資料] リーフレット類（有松絞商工組合刊）

トヨタ博物館 とよたはくぶつかん

自動車の歴史を学び、人と車の豊かな未来を考えるために、トヨタ自動車(株)創立50周年記念事業の一環として1989年（平成）に設立。地上3階、延床面積11,000㎡。

ガソリン自動車が生じた19世紀後半から約100年の自動車発達史を、前半の50年は欧米の車で、後半の50年は日本の車で紹介。とくにガソリン自動車第1号のベンツ三輪車（1886年）は、馬車のカートそのままの形で展示され、自動車が、長い〈馬車の時代〉の後継であることを彷彿とさせる。初期の車を集めた「パイオニアの時代」、1910年代から20年代の「量産・大衆化の実現からモータリゼーションへ」、30年代の「ファッション化から自動車技術完成へ」など、ゾーンを分けて乗用車を中心に展示。どの車両も動態保存され、いつでも走行可能な状態になっている。

小学校の見学には「歴史ガイドツアー」が準備されている。四季を通して「モノづくりを楽しむ」「クラシックカーを身近に感じる」などのイベントが行われている。

所在地 愛知県長久手町大字長湫字横道 41-100

☎ (0561) 63-5151 有料

アクセス 地下鉄「藤ヶ丘」駅・バス「長久手車庫」

[参考資料] リーフレット類（同センター刊）

ガスエネルギー館 がすえねるぎーかん

地域の人々をはじめ、多くの人々にガスエネルギーの今日と明日の姿についての理解と関心をもってもらおうと、1985年(昭60)に東邦ガス(株)が総合技術研究所に開設。子どもたちが「エネルギーと環境」について〈見てふれて楽しく学べる〉未来感覚あふれる参加型の展示館である。

展示コーナーには、物質の燃焼、力学エネルギーについて実験を通して学ぶ「ふしぎだ！エネルギーコーナー」、液体窒素による超低温の不思議な物質変化が見られる「実験コーナー」、震度5の地震を疑似体験できる「地震体験コーナー」、立体映像と宇宙船に乗った気分を味わう「バーチャルシアター」や、ヘリコプター模型を操縦し新エネルギーを発見する「発見エネルギーコーナー」がある。

所在地 東海市新宝町 507-2

☎ (052) 603-2527 無料(要予約)

アクセス 名鉄「柴田」駅

[参考資料] 「GAS ENERGY EXHIBIT HALL」
・パンフレット類(同エネルギー館刊)

手織りの里 木綿蔵ちた ておりのさと もめんぐらちた

木綿が衣料繊維として一般に用いられるようになったのは新しく、江戸時代に入ってからのもので、それまでは麻・フジ・コウゾ・シナノキが使用されていた。

江戸時代初期から「知多木綿」は江戸に売りに出されていた。同中期に岡田村(現在、知多市岡田)に晒技術が導入されると、「知多晒」は重宝がられ、江戸へ向けて大量に移出された。こうして昭和30年代前半まで、知

多市は、さらし木綿の産地として繁栄した。

今も木綿の反物を保管した当時の木綿蔵が数棟残されている。その蔵の1つで、1868年(明治元)に建造され、竹内虎王所有の蔵を利用した「手織りの里、木綿蔵ちた」が、1995年(平7)に有志によって設立された。この地域の家々に残る「家織り」と呼ばれる紺を主とした縞木綿を織る技術を受け継ぎ伝えるためである。綿の実や、その実から種を取り出す木製の器具、9台の機織り機が展示され、また機織りの実演を見たり、実際に体験もできる。

所在地 知多市岡田中谷 9

☎ (0562) 56-4722 無料(体験は要予約、有料)

アクセス 名鉄「朝倉」駅・バス「岡田」

[参考文献] 『世界大百科事典』平凡社、1967)・リーフレット類(木綿蔵ちた刊)

水の生活館 みずのせいかつかん

「健康で心豊かな生活」「活発な産業活動」「美しい環境」、これらはすべて水との関わりのなかで成り立っている。水の自然・科学、そして歴史・民俗など、水について楽しく学ぶ場所として、1994年(平6)に愛知県企業庁によって開設された。

知多半島は海沿い以外が高台になっていて、1961年(昭6)に愛知用水が敷設されるまでは長く渇水に悩まされてきた。この生活館は、用水を溜めておく佐布里池の畔に建てられ、愛知用水の意義を伝えている。

展示室の「県営水道の歩み」では、毎日使っている水道水が、愛知用水の水源からどのように家の蛇口まで来ているかをパネルとビデオで説明し、さらに知多半島の「地形模

型」上に、その水路が光の点滅で示されている。また体重にしめる水分量がわかる「体重計コーナー」や、水に苦勞した時代の民具や「跳ね釣瓶式井戸」、水運びなどの様子が実物大のジオラマで見られる。

所在地 知多市佐布里字鮑脇 48-1

☎ (0562) 55-6531 無料

アクセス 名鉄常滑線「朝倉」駅・バス「東岡田」

[参考資料] 『愛知用水とわたしたち』(愛知・豊川用水振興協会刊)、リーフレット類(水の生活館刊)

盛田味の館 もりたあじのやかた

知多半島は、自然条件と水運の便がよく清酒の製造に適した地で、灘・伏見に並び称されてきた。盛田(株)は、1665年(寛文5)に南知多の^{こすがや}小鈴谷で酒造業を起し、それ以後330年の歴史をもつ愛知県の大手醸造メーカーである。現在では清酒・味噌・たまり・しょうゆを製造している。

豆味噌は、愛知県独特の伝統的食品の一つである。製造は、一部機械が取り入れられてはいるものの、直径約3mの30石(5400リットル)入る木樽へ、豆を〈詰め込み・混ぜ合わせ・取り出す〉作業などは伝統的に人手によっている。蔵に並ぶ176個の大樽の肌触りと蔵に立ち込める匂いは、昔ながらのものである。

1990年(平2)には「自然・健康・本物」をテーマとした観光スポットとし、150年前の醸造蔵を改造、重厚な雰囲気を生かした休憩所・レストラン味の館を建設。味噌や酒づくりの過程をビデオで紹介したり、製品を販売したり、また、田楽など味噌を使った料理を味わうことができる。予約すれば工場見学もできる。

所在地 常滑市小鈴谷字脇浜 15

☎ (0569) 37-0733 無料(工場見学と団体は、要予約)

アクセス 名鉄「知多武豊」よりタクシー

[参考資料] パンフレット・リーフレット類(同味の館刊)

常滑市民俗資料館 とこなめしみんぞくしりょうかん やきもの散歩道 やきものさんぽみち

常滑焼の街の古い文化と伝統を守っていくために、1981(昭56)年、常滑市によって開館。国の重要有形民俗文化財に指定された常滑の陶器のうちから約300点を選び、3つのテーマに分けて、解説展示。子どもたちは、日本六古釜の一つで、900年の歴史をもつ常滑焼に関して学ぶことができる。

また、やきもの散歩道を散策すると、窯場・煉瓦造りの高い煙突、黒い板塀の工場のある街並みや、土管と焼耐瓶で埋め尽くされた「土管坂」など、常滑焼の街がかもした独特の風情が味わえる。なかでも国の重要有形民俗文化財である登窯を見学するとよい。この登窯は全長約22m、10本の煙突と8つの焼成室のある最大級のものである。なお、登窯広場にある展示工房館では、陶芸教室も開かれている。こうした体験は、小学校5年生社会科の伝統工業を学習するうえで参考になる。

所在地 常滑市瀬木町 4-203

☎ (0569) 34-5290 無料

アクセス 名鉄「常滑」駅

[参考文献] 『観光とこなめ』他 リーフレット類

和紙のふるさと 和紙工芸館・展示館 わしひのふるさとてわしかん

西加茂郡小原村の和紙工芸普及と発展のため、1979年(昭54)に愛知県により創設された。17万m²の自然豊かな敷地には、和紙工

芸館、展示館、和紙原料植物園などがあり、丘陵を利用した遊歩道もある。

紙すきの技術がこの村にはいつてきたのが1496年（明応6）、職人技による和紙製造が盛んとなったが、近代化の波に押され和紙の需要が減少し衰退した。だが1936年（昭11）藤井達吉により、従来の和紙製造が「小原村工芸紙」として国内外に広まっていく。

子どもによっては、和紙の歴史をふり返りうるとともに、芸術紙としての工芸美に触れることができ、伝統技術保存の問題を考えさせる機会ともなる。なお、その製作過程を見学でき、おのずから紙すきの実習をも体験できる。

所在地 西加茂郡小原村大字永太郎 216-1

☎ (0565) 65-2151 有料

[参考文献] 『愛知百科辞典』（中日新聞本社、1976）

デンパーク でんぱーく

1997年（平9）に「自然とのふれあい」や「心豊かな暮らし」を訪れる人びとで分かち合う目的で、安城市により開設。正式には「安城産業文化公園」の呼称であるが、安城が「日本のデンマーク」と言われたことがあって愛称が「デンパーク」となった。総面積は131,000 m²。緑と花を基調とした自然園に、デンマーク風の建物が点在し常緑樹に囲まれて、1500種の花が植えられている。

子どもとの関わりでは、デンマークの街並を模した「フローラルプレイス」に童話館があり、植物についてのアニメやアンデルセンなどの童話本が備えてある。また5つの〈花の色〉の部屋があって、各部屋には白い花、黄色い花、赤い花が咲き乱れ、また、「ファン

タジーガーデン」には小人の人形たちが住んでいる。

催しとしては、さつまいもなどを植えたり収穫したりする「ちびっこ農園」教室、親子で作る「ソーセージ」教室など、体験型のイベントがいくつも準備されている。

所在地 安城市赤松町梶1

☎ (0566) 92-7111 有料

アクセス JR「安城」駅・バス「デンパーク」

[参考資料] リーフレット（デンパーク刊）

三菱自動車工業(株) みつびしじどうしゃこうぎょうかぶしきがいしゃ 名古屋製作所岡崎工場 なごやせいさくしょおかざきこうじょう

1970年（昭45）に三菱重工業から自動車部門が分離・独立。ここでは軽自動車から高級乗用車・大型バス・大型トラックに至るまで、いろいろな種類の自動車を生産している。

日本の自動車生産が世界のトップレベルにあること、わたしたちの生活に車はなくてはならないこと、環境問題では車が一つの污染源であることなど、自動車についての幅広い知識を得ることができる。

この岡崎工場では、タイプの異なる複数の車を一本のラインに流して組み立てる「多車種混流生産」の方式を取っている。小学5年生の社会科に「日本の自動車産業」の項があり、その学習のために訪れる見学者は多い。特徴としては板金-溶接-(塗装)-組立-検査の工程を一本のラインで見られる形態となっている点である。

所在地 岡崎市橋目町字中新切1

☎ (0564) 31-3100 無料（団体のみ見学できる、要予約）

アクセス 名鉄「新安城」駅か「東岡崎」駅からタクシー、または愛知環状鉄道「北野増塚」駅

[参考資料] パンフレット類（同工場刊）

〈科学の部〉

名古屋空港航空宇宙館 なごやくうこうこううちゅうかん

航空のことをよりよく理解してもらうことを主目的に、1985年（昭60）、名古屋空港ビルディング^(株)が開設。名古屋空港という立地条件や、当地方が戦前から現在にいたるまで航空宇宙産業のメッカであるという地域の特色を生かした科学館で、国内線ターミナル3階に約1,300 m²の展示面積を有する。

実物の「^{ゼロしきかんじょうせんとうき}零式艦上戦闘機32型」「Mu-2 A小型多用途機」や、25分の1の超精密密度模型で再現した「名機百選」を展示しており、子どもたちは実機の迫力を感じるとともに当時の新聞記事などから、その時代背景を知ることができる。

学習コーナーでは、航空機の安全運行の仕組みや、揚力の発生の原理、宇宙ロケットなどについて実物・模型・実験装置を使い、わかりやすく紹介している。また、小型機でパイロットになった気分が味わえるフライトシミュレーターもある。実物の飛行機や離発着の間の作業を目の前で見ることのできる送迎デッキと合わせて、社会見学の間としても利用できる。

所在地 愛知県西春日井郡豊山町豊場

☎ (0568) 28-6367 有料

アクセス 名鉄「西春」駅・バス「名古屋空港」

[参考資料] リーフレット類（同航空宇宙館刊）

でんきの科学館 でんきのかがかん

電気と電気事業についての理解を深め、広

く科学知識の向上に役立てることを目的として中部電力^(株)が1986年（昭61）に開設。電気文化会館の2・3・4階にあり、〈見て・触れて・体験する〉をコンセプトに、電気の歴史や原理、発電所から家庭に届くまでの電気の流れを実物や模型・映像によりわかりやすく説明している。科学知識の向上と普及に役立てることを目的とした参加体験型科学館である。

子どもたちには、「エレクトリック・コンパニオン」が案内・説明してくれる。メインのホームシアターは80人が同時にゲームに参加できる双方向映像劇場。

春休み・夏休みには、「おもしろ計量フェア」のような特別イベントがあり、年4回「七夕」「あかり」「クリスマス」「バレンタイン」をテーマに、工作やゲーム、クイズなどを盛り込んだ手作りのイベントが催され、実験工作教室、オリエンテーリング・スペシャルなども開かれている。

所在地 名古屋市中区栄2-2-5

☎ (052) 201-1026 無料

アクセス 地下鉄「伏見」駅

[参考資料] パンフレット類（同科学館刊）

NHK名古屋放送局 えぬえっちけいなごほうそうきょく

NHK名古屋放送局は、1925年（大14）にラジオによる本放送開始、1954年（昭29）にテレビジョンで本放送開始という歴史をもつ。1991年（平3）NHK名古屋放送センタービルへの移転を機に、市民に親しんでもらえるような放送局をめざし、見学者用のゾーンを設けている。

子どもたちは、1階「プラザウェーブ21」において公開番組を見学したり、2階「遊&

放プラザ」において、模擬ニューススタジオで放送体験したり、110インチのハイビジョンシアターを鑑賞したり、4階「情&放プラザ」において、「放送の歴史」や名古屋放送局制作の番組「中学生日記」ができるまでの過程を紹介した映像を、テレビモニターで見たりできる。

こうした見学は、とくに小学校5年生社会科の放送局と通信に関して学習する際に、大いに役に立つ。団体見学の場合には、ガイドの説明付きでスタジオ見学もできる。

所在地 名古屋市東区東桜1-13-3
☎ (052) 952-7000 無料(団体要予約)
アクセス 地下鉄「栄」駅・名鉄「栄町」駅
[参考資料] リーフレット類(同放送局刊)

津島児童科学館 つしまじどうかがかん

青少年の夢と想像力を育むために、愛知県と津島市が共同で1991年(平3)に創設。日光川沿いの広い津島市地域文化広場のなかに、屋内・屋外プール、花の木広場とともに建っている小さな科学館である。

館内には、100座席あるプラネタリウムホール・展示室・視聴覚室などがある。プラネタリウムホールでは、直径12mのドームに季節の星座や星の運行を時間を縮めて映し出したり、話題となっている宇宙関連の事柄について解説したりしている。展示館には、スペースシャトル、スペース・ステーション、極軌道プラットホームなどの模型、星座に関するいろいろな疑問に答えてくれる「パソコン星座しらべ」、離陸から着陸まで飛行機の操縦が疑似体験できる「シミュレーションマシン」などがあり、ゲーム感覚で科学的体験ができる。また、天文工作・理科工作を

したり科学教室・星座教室などでの学習もできる。

所在地 津島市大字津島字南新開84
☎ (0567) 24-8743 無料(一部有料)
アクセス 「名古屋」駅・名鉄バス「日光」
[参考資料] リーフレット類(同科学館刊)

下水道科学館 げすいどうかがかん

名古屋市が1989年(平成元)に市政百周年事業の一つとして全国に先駆けて開設。構造的に目にふれにくい下水道を楽しみながら体験的に学習し、理解できるように名城下水処理場の展示スペースを拡充整備した。

子どもにも興味深く学習できるように、オーディオ&ビジュアル機器を取り入れた展示がなされ、ハイビジョンで下水道のしくみを上映する「下水道のはたらき」や、下水処理のしくみを紹介する「マジックビジョンシアター」、自転車型マシンのペダルを漕いで、下水管内を探検する「地下の川脱出ゲーム」などがある。

なお屋外には、デザインマンホール・コレクションや、戦前のポンプ、さらに処理水を利用した水景施設として「アーバンオアシス」などがある。

下水道のしくみがわかる数少ない施設であり、小・中学校の社会見学の場ともなっている。

所在地 名古屋市北区名城1-3-3 (名城下水処理場内)
☎ (052) 911-2301 無料
アクセス 地下鉄「名城公園」駅

名古屋市科学館 なごやしかがかん

名古屋市が市制70周年記念事業の一環として建設。1962年(昭37)に天文館、64年

(昭39)に理工館が開館した。89年(平1)に新しく生命館が開館すると同時に、これまでの館も大改修し一新した。

天文館では、幼稚園児から高齢者までを対象に、単に憧れとしての星空を眺めるだけではなく、天文知識や現象を正確に伝え、本当の星空まで興味が広がるように、プラネタリウムをはじめ天文に関するさまざまな展示や催しが行われている。なかでもプラネタリウムでは世界中の星座をみることができ、宇宙や星座の話を生解説で聞ける。そのうえ天文台には口径65cmのジャンボ望遠鏡があって、昼間でも星を観測することができる。

理工館では、物理学・化学・工業の分野にわたり、基本原理とその応用である最新技術が系統的に展示されている。「見て、触れて、確かめて」をモットーに、常に未知への好奇心と探求心を刺激している。たとえばモニターを見ながら飛行機の操縦体験ができたり、中京地区の鉄道沿線をモデルにした列車運転大パノラマ、サイエンスショウなどを見たりできる。

生命館では、生命とは何かをあらゆる角度から総合的に解明しようとしている。この生命科学をテーマに「生命」「生活」「環境」の3つのグループを設定して、この地球という惑星のうえで、人類が豊かで健康な暮らしをするための問かけをしている。

なお各館とも、展示品だけでなく、毎日時間を決めて職員による実演があり、サイエンスホールでは立体映画・サイエンストピックスなどを上映している。

所在地 名古屋市中区栄2-17-1
☎ (052) 201-4486 有料

アクセス 地下鉄「伏見」駅

[参考資料] 『名古屋市科学館事業概要 H9年度版』・リーフレット類(同科学館刊)

名古屋環境学習センター なごやかんきょうがくしゅうせんたー (エコパルなごや)

人々が環境への関心を深め、自然とともに生きる心を育み、それを日々の生活のなか中で実行してもらうため、人々の環境学習の拠点として1995年(平7)に名古屋市が設置。1フロアのまとまった広さである。

生き物と環境の関わりについて仮想体験しながら学習するバーチャルシアター、簡単な工作を通して環境を学ぶワークショップコーナー、「地球の温暖化」「オゾン層の破壊」などの疑問に答えてくれる地球環境コーナーのほか、名古屋市内の10の川と区役所など26カ所に設置された観測地点から、水質や風、空気に関する最新のデータが表示されるデータベースコーナーもある。

いずれも小学校高学年の子どもたちが楽しみながら環境について興味をもち学習できるよう整備してある。ライブラリーコーナーには、理解をさらに深められるように子ども用を含め関係図書やビデオが備えられている。

所在地 名古屋市中区栄1-23-13

☎ (052) 223-1066 無料

アクセス 地下鉄「伏見」駅

[参考資料] リーフレット類(同センター刊)

名古屋市青少年センター なごやせいしょうねんせんたー (アートピア)

これからの名古屋の文化を担う青少年が芸術文化活動を行う場として、1996年(平8)ナディアパーク・デザインセンタービル7~12階に名古屋市が創設。「観賞・発表の場」のホールには、客席数が724席あり、「創造・

育成の場」としてリハーサル室、演劇・舞踊・音楽などの練習室、スタジオなどを設置。

子どもたちは、とくに「体験の場」と「交流の場」に興味を持つ。「体験の場」には、最新のコンピューター技術を駆使した映像と音楽による体験型のゲームが7種ある。たとえば、「映像装置としてのピアノ」では、描いた映像の流れがピアノの音を導き、同時に立体的な映像が現れ、ゲーム一つ一つにこれまでにない発見がある。「交流の場」はもっぱらパソコンやビデオなどハイテクを媒体とする活動の場である。このように芸術文化に関する情報を得たり、最新映像を楽しめるほか、「実験工房」では作曲やポスターの原画作りもできる。

所在地 名古屋市中区栄3-18-1 ナディア
パーク・デザインセンタービル 7～
12階

☎ (052) 265-2088 無料

アクセス 地下鉄「矢場町」駅

[参考資料] リーフレット類(名古屋市青少年
センター刊)

半田空の科学館 はんだそらのかがくかん

青少年の科学する目と心を養い、夢と創造力を育むことを目的に1985年(昭60)に半田市が設立。

知多管内唯一の天文を中心とした科学館で、常設展示室のほか直径18mドームに観客席240のプラネタリウムホールがあり、屋上の天体観測所には30cmの反射望遠鏡が備えられている。

第1・第2展示室で子どもたちは、常設展示物に触れたり操作したりして、地球や宇宙について学ぶことができ、プラネタリウム

ホールでは、満天の星空のもとで〈夢〉の世界に浸ることもできる。

また科学館主催で、幼稚園、小学校、中学校の天文分野の授業の指導、プラネタリウム投影、小・中学生対象の天文教室、星を観る会、観望会などの催しが実施されている。

所在地 半田市南二ツ坂町80-32

☎ (0569) 23-7175 7176 無料

アクセス 名鉄「成岩」駅

[参考資料] リーフレット類(同科学館刊)

旭高原元気村 あさひこうげんげんきむら

自然を活用して、農林業の振興と都市との交流をはかる目的で、1988年(昭63)に旭町が開設。

54年(昭29)に村営牧場としてスタートし、94年(平6)に〈愛知のふるさと事業〉として、「きらめき館」「雪の広場」などの施設が整備された。

広い国定公園のなかにある元気村は、すっぽりまるごと〈アウトドア・ビレッジ〉となっており、自然や動物とふれあったりして、遊ぶことができる。

雪と星をテーマにした白亜の館「きらめき館」では、夏でも降雪体験ができ、120インチの液晶ビジョンで天体望遠鏡や気象衛星「ひまわり」の映像を見ることができる。「雪の広場」(冬場のみ)では、動く歩道やスリル満点の150mのソリ専用ゲレンデがあって、雪と遊ぶことができる。また口径40cmのコンピュータ制御の高性能天体望遠鏡を備えた天文台もある。

そのほか、羊やラマのいる「ふれあい動物園」、50mスライダーのある「わいわいランド」、乗馬のできる「ライディング・ファー

ム」などが備わっている。

所在地 愛知県東加茂郡旭町大字八幡字根山
68-1

☎ (0565) 68-2755 有料

アクセス 名鉄「豊田」駅・バス「小渡」

[参考資料] リーフレット類

豊田地域文化広場 とよたちいきぶんかひろば おもちゃの科学館 おもちゃのかかくかん

豊田地域文化広場は、心のふれあいを通して潤いのある地域を築いていくため、多彩な文化・スポーツ活動の場を提供する目的で、1981年(昭56)愛知県と豊田市によって豊田市南部の郊外に設立された。おもちゃの科学館のほか、屋内プール・テニスコート・体育館・茶室などがある。2階建て、延床面積6,860 m²。

おもちゃの科学館は、子どもが楽しみながら興味を持って科学的な体験ができるように工夫されている。「発見ランド」では、音・聴覚、光・視覚などの性質を科学的装置によって1つだけ取り出し拡大して見せてくれる。7本のチューブに耳を当てると、長さによって音が違って聞こえてくる「ドレミチューブ」やプリズムを用いた光のスケッチブック「ライトブック」など。ほかに、のりもののミニチュアが集まった「ミニチュアランド」、幼児が遊べる「冒険ランド」がある。

所在地 豊田市西田町けやき1

☎ (0565) 53-0671 無料

アクセス 名鉄「竹村」駅、または愛知環状鉄道「永覚」駅

[参考資料] リーフレット類(同地域文化広場刊)

豊橋地下資源館 とよはしちかしげんかん

地下資源やエネルギー問題に深い関心を寄せ、未来の生活を切り開いていく礎となるこ

とを願い、1980年(昭55)に、豊橋市が国際児童年記念事業の一環として建設。

これまでに「セラミックスの科学展」「新しい材料の科学展」「宮澤賢治と鉱物展」などの企画展を開催、93年(平5)には宝石の原石収集事業をも開始した。

資源・エネルギーをテーマとした全国的にも珍しい博物館で、鉄鉱石やポーキサイトなど、生活に欠かせない資源鉱物をはじめ、世界各地から産出された鉱物・岩石を1200点收藏。目玉とする展示には、豊橋市高師町で産出された「高師小僧」と呼ぶストロー状の鉄鉱石の一種や、ルビー、アクアマリン、世界最大級のトパーズなど、美しい宝石の原石もある。

子どもにとっても、展示物の多くは見るだけでなく、楽しみつつ学べる構成となっており、夏休みなどには科学館の催しとして、鉱物・植物を探索する自然観察会、「化石模型教室」のような学習教室や化学実験ショーなどを実施している。

所在地 豊橋市大岩町字火打坂19-16

☎ (0532) 41-2833 無料

アクセス JR「二川」駅

[参考資料] 「豊橋市地下資源館ガイドブック」(豊橋教育委員会刊)

〈芸術・芸能の部〉

犬山文化史料館 いぬやまぶんかしりょうかん からくり展示館 からくりてんじかん

祭礼に引き出される山車だしのうち、からくり仕掛けの人形を設置した山車は全国に約230台あり、その7割が名古屋を中心とする尾張地域にあるという。〈山車からくり〉のルーツ

については、1630年（寛永7）の名古屋東照祭に七間町の人たちが大八車に能人形を飾ったことに起源をみる説、300年ほど前からくり興行で一世を風びした大阪の竹田座が開発した〈仕掛け〉と、尾張地域に定着していた〈和時計の技術〉とが結びついて〈山車からくり〉が作り出されたという説などがある。

文化史料館は、350年の歴史と伝統をふまえ、山車からくりと地域の文化財を保存・展示するために、1987年（昭62）に開設された。同館には、犬山祭りで活躍する13基の山車のうち常時2基が交替で展示され、別館のからくり展示館には、からくり人形が多数展示されている。子どもたちは、〈山車からくり〉を実際に見て、この地方独特の歴史をもつ伝統芸能に触れることができる。週2日特設工房で行われる九代目玉屋庄兵衛によるからくり細工の実演を見学するのも興味深い。

所在地 犬山市大字犬山字北古券8
☎ (0568) 62-4802 有料
アクセス 名鉄「犬山遊園」駅
[参考資料] リーフレット類（同文化史料館刊）

名古屋市美術館 なごやしびじゅつかん

1988年（昭63）に名古屋市の基本構想である「文化の香り高い街」を実現するための中心施設として名古屋市が建設。1年に5本の美術特別展とそれに関連する講演会の開催のほか、教育的普及活動にも力を注ぎ、フィルム・アートなど多様な美術を劇場方式で紹介する「フライデイ・ナイト・シアター」や、パフォーマンスとダンスなど、美術以外のジャンルの芸術をも紹介しており、都市の文化センター的な役割をも担っている。

91年（平3）からは、子どもを対象とした教育プログラム「夏休み子どもの美術館」がスタート。子どもたちに美術の楽しさや意義を発見する機会を与えることを目的に、注意深い観察と創造に富む鑑賞を促すためのワークシートが配付され、展示室内では学芸員やインストラクターとともに美術作品を鑑賞するギャラリー・トークや、展示作品の理解につながるような創作活動がなされている。

所在地 名古屋市中区栄二丁目17-25 白川公園内
☎ (052) 212-0001 有料
アクセス 地下鉄「伏見」駅
[参考資料] 『平成8年度名古屋市美術館年報』・パンフレット類（同美術館刊）

日本独楽博物館 にほんこまほくぶつかん

館長の藤田由仁よしひとが30年かけて各地で収集した独楽こまを展示するとともに、子どもたちに独楽回しの楽しさを体験してもらおうと、1981年（昭56）に自宅の一部を独楽の遊び場として開放し、博物館として開館。1988年（昭63）に現在の場所へ移転。延床面積は約165m²。

江戸時代の投げ独楽、ベーゴマをはじめ、鳴り独楽、叩たたき独楽、賭独楽、ずぐり独楽など、大きさ・素材・デザインも多種多様な独楽約2万点を所蔵。そのうち約3000点を陳列展示。なかにはアメリカ・中国・イギリス・チリなど世界各地の独楽もある。

館内で子どもたちは、単に独楽を見るだけでなく、自由に〈独楽回し〉を楽しむことができる。ときには独楽の技の実演や指導に応じてくれることもあり、独楽の販売も行っている。

さらに収集したお面、羽子板、人形などの小物玩具約2万点のうち約2500点をも展示している。

所在地 名古屋市港区小碓4-452-2

☎ (052) 383-9051 無料 (要予約)

アクセス バス「当知1丁目」

豊田市棒の手会館 とよたしぼうのてかいかん

県指定無形民俗文化財である「棒の手」の資料を展示・収蔵するため、豊田市によって1986年(昭61)に開設。

棒の手とは、もともと6尺(1.8m)前後の棒を持って敵と戦い身を守る武術のことで、棒のほか太刀・薙刀・槍・鎌も用いる。多くは1対1の勝負を特徴ある型にしたもので、2人が息を合わせて演じる。棒の首尾両端を返して打ち突きする変化に富んだ早業である。その歴史の詳細はわかっていないが、室町時代には武家の奉公人や農民など、庶民の間で行われていたようである。

尾張・三河国では、古くから神社や寺の節句祭に奉納される「献馬」を警固し、棒の手が奉納されていたという記録がある。とくに熱田神宮・猿投神社(豊田市)・龍泉寺(名古屋市)へは、地域ごとにグループを形成して奉納した。会館に隣接する猿投神社の猿投祭りでは、毎年10月に献馬の奉納が見られ、行列の「子供連」と棒の手の実演には、それらを継承する子どもたちの姿も見られる。

会館の常設展示には、献馬を飾る馬飾りと警固の行列の様子を再現しているほか、献馬・猿投祭り・棒の手の各流派の型などについて展示やスライド、ビデオによって解説がなされている。

所在地 豊田市猿投町別所23-1

☎ (0565) 45-7288 無料

アクセス 名鉄「豊田市」駅・バス「棒の手広場前」

[参考資料] リーフレット類(同会館刊)

おかざき世界子ども美術博物館 おかざきせかいこどもびじょうはくぶつあき

子どもたちに国際的な広い視野を与え、創造的意欲と才能を引き出すことを目的とした施設で、1985年(昭60)に岡崎市と愛知県によって開設。

世界110ヶ国の子どもたちの絵や、ピカソ・ロートレック、山下清など世界の芸術家たちが10代のころ描いた作品に触れることができる。また、親と子がその感動をそのまま造形センターで作品の制作に表すことができる。またここでは美術博物館での鑑賞から創作の場が一体化し、親子で楽しみながら対話を促進するのが特徴で、「見て、考えて、作る」文化広場でもある。

館の機能は、THINK(考える)、SEE(見る)、DO(作る)の三つに分けてあり、各ゾーンを関連させながら楽しむことができるようになっている。上記の絵の展示のほか、世界の各文化圏の民芸品・玩具・絵本などが常設展示されている。

併設されている親子造形センター(DOゾーン)では、気楽に創作活動ができる四つの教室(絵画・工作・アートコーナー・粘土)が設けられていて、専門家が指導にあたっている。どの教室も人気が高く、とくに日曜日や祝日には親子で利用する人でいっぱいになる。まさに静的な鑑賞を超える参加型体験美術館である。

また、敷地内の「ふれあい広場」には大きなきのこや切株などの遊具があり、おもいき

り遊ぶことができる。

所在地 岡崎市岡町字鳥居戸1-1

☎ (0564) 53-3511 有料

アクセス 名鉄「美合」駅、バス「おかざき世界子ども美術博物館」

[参考資料] リーフレット類(同博物館刊)

花祭会館 はなまつりかいかん

奥三河の山あいの町村に700年の昔から伝わる花祭りは、11月から3月まで各所で行われる奇祭である。昭和初期に早川孝太郎によって世に紹介されて以来、多くの学者や観光客が訪れるようになり、1976年(昭51)には国の重要無形民族文化財に指定された。40数種類におよぶ舞と神事が夜を徹して行なわれ、神人和合、五穀豊穡を祈る。なかでも「花の舞」は、花笠をかぶった子どもが舞う美しく楽しい舞である。花祭会館は、こうした民俗芸能の保存継承のために東栄町が建設した総合社会教育施設の一つであり、78年(昭53)に開設された。花笠を形どった建物の内部に入ると、中央に舞庭まいどがあり、「花舞」「湯ばやし」「榊鬼さかさおに」「山見鬼やまみおに」「茂吉鬼もきちおに」が人形で再現されている。また、大入村で長年使用されてきた祭具・面・衣裳などが保存・展示されている。子どもたちは実物を真近に見て、大きさや質感、表情などに、ビデオや写真では味わうことのできない印象を受けている。花祭行事次第を記した古文書や、花祭りの写真展示コーナーもある。

所在地 北設楽郡東栄町大字本郷字大森一番地内

☎ (05367) 6-1266

アクセス JR「東栄」駅・バス「本郷」

[参考資料] リーフレット類(同会館・東栄町刊)

〈スポーツ・遊びの部〉

名古屋市とだがわこどもランド なごやしとだがわこどもらんど

子どもたちが、日常的には体験できない水・緑・土といったような自然空間のなかで、たくましく健やかに育つよう〈遊びのふるさと〉として、1996年(平8)に名古屋市が開設した。

戸田川緑地ひなたきと〈陽の郷〉敷地内には、本館・プレイハウス・大型遊具・乗り物遊具・じゃぶじゃぶ池などがある。本館には、自然の素材や廃材などを利用して、工作のできる創造の部屋、親子で楽しめる調理の部屋、紙芝居やおはなし会などのできる多目的室、子ども図書館、ホールがある。屋外の「じゃぶじゃぶ池」では、いかだ渡りなどが楽しめるし、車椅子でも利用できる木製大型遊具が、ランド内に備わっている。

小さな子どもや障害を持った子どもも、利用しやすいように配慮してある。そして子どもたち自身の、遊びの〈創造〉を重視している。また遊びを導くスタッフも常駐している。

所在地 名古屋市港区春田野1-3616 戸田川緑地Cゾーン「陽の郷」内

☎ (052) 304-1500 無料

アクセス 市バス「春田野」

[参考資料] リーフレット類(同こどもランド刊)

庄内緑地 しょうないりょくち

1986年(昭61)、総合公園として庄内川、矢田川の合流地点に名古屋市により設置され、約44万m²の敷地に、テニスコート・陸

上競技場・ゲートボール場・サイクリングコース・室内広場などのスポーツ施設、やボート池・わんぱく広場・ピクニック広場などのレクリエーション施設、また緑化植物園としてバラ園・花木園・菖蒲園があり、そのほか修景施設として大噴水・水鳥池などがある。緑化普及推進のために「庄内緑地グリーンプラザ」が開館されていて、図書の閲覧もでき、緑化相談に訪れる人びとも多い。

園内には虫や鳥が多く生息しているので、子どもたちはそれらと触れ合ったり、「じゃぶじゃぶ池」で水に親しんだり、「わんぱく広場」で遊具で遊んだりできる。

なお、催しとして、夏休みに「親子押し花教室」「植物の観察と押し葉づくり教室」などが開かれている。

所在地 名古屋市西区山田町大字上小田井字敷地 3527
☎ (052) 503-1010 一部有料
アクセス 地下鉄「庄内緑地公園」

名城公園 めいじょうこうえん

1949年(昭24)に「都心の緑の拠点」「市民のスポーツ、レクリエーションに供する場」として名古屋市により開設された。

この公園は、名古屋城の北側に広がる旧陸軍練兵場跡に作られた北園だけでなく、北は愛知スポーツ会館周辺から、お城の東側の二之丸・県庁東の三之丸庭園・外堀沿いなど、広い区域に渡っている。総面積は76万m²あり、名古屋市を代表する総合公園といえる。

特に北園には緑に親しめる市民の森、二之丸庭園、フラワープラザなどがあり、また水に親しめるように、せせらぎ・おふけ池・水の広場などがある。とくに子どもたちには、

自由に思いきり遊べるような芝生広場、子どもの広場、それにジョギングコース、レンタルサイクルなどがある。名古屋城天守閣をのぞむ絶好のスポットにもなっている。

所在地 名古屋市北区名城1-2-26
☎ (052) 911-3418 無料 (一部有料)
アクセス 地下鉄「名城公園」
[参考資料] リーフレット(同公園刊)

海南こどもの国 かいなんこどものくに

1985年(昭60)海部郡十四山村に〈児童遊園〉として愛知県により開設された。児童の「健全な育成」を願い自然のなかでの冒険、スポーツ・遊びを通しての体力の増進、情操を養うことを目的としている。その面積は木曾川三角州の11万m²に及ぶ干拓地。施設には、子どもたちの冒険心、自発性、忍耐力を醸成するアスレチック遊具が豊富にあり、とくにラバーマウント、スーパーウェーブ、ソフトブロックなどに人気がある。また、体力作りを目的として、足踏式ゴーカート、水上自転車などがある。催しとしては、七夕かざり作り、どんぐり工作、クリスマスリース作りなど、季節に即した催しが行われている。

所在地 海部郡十四山村大字鳥ヶ地新田字二反田1238
☎ (05675) 2-1515 無料
アクセス 近鉄「弥富」駅・バス「海南こどもの国」

愛知青少年公園 あいちせいしょうねんこうえん

明治100年記念事業の一環として、青少年の健全育成を図るために、愛知県により1975年(昭45)に開園。敷地面積約200m²。体育館、アイススケート場、温水プール、テニスコート、サッカー場、野球場、大芝生苑、キャンプ場、サイクリングコース、オリエンター

リングコース、フィールド・アスレチック、ゴーカート場、ミニカー場やベビーゴルフ場などが整った、大規模で総合的なスポーツ・レクリエーション施設である。さらに子どもたちは「青少年スポーツ教室」、スケートレッスン、「親子ゲーム」、「親子陶芸教室」、「こども映画会」などの催しに参加したり、480人収容の宿泊施設に泊まることもできる。

また園内には、1979年（昭54）に設立された国立の愛知国際児童年記念館がある。「こどもホール」、アニメや映画が視聴できるビデオ室、映像シミュレーションの「アドベンチャーボックス」、図書・おもちゃコーナー、そして9つの童話のシーンが設けられた「童話館」などがあり、子どもたちは、これらの施設をも利用できる。なお「児童総合センター*」もまた、公園内の施設の一つである。*

項目参照

所在地 愛知郡長久手町大字熊張
☎ (0561) 62-2111 無料（一部有料）
アクセス 地下鉄「藤が丘」駅・バス「愛知青少年公園」
[参考資料] 『愛知青少年公園概要』（平成9年）・リーフレット類（同公園刊）

阿久比町立ふれあいの森 あぐいちょうりつふれあいのもり

1993年（平5）にスポーツとレクリエーション活動や、世代を越えた交流の場、青少年の健全育成を計る活動などの拠点として同町が開設。施設には、かまどと炊事場のある「デイキャンプ場」、55mのローラー滑り台などのある「ワンパク広場」、全国の県木が楽しめる「親水広場」「パターゴルフ場」などのほか、珍しい「ホタル養殖場」がある。

阿久比町の田や川辺の草むらには、ヘイケボタルがたくさん生息していて、初夏ともな

ると、夜空を淡い光のつぶが乱舞するのが見られる。同町は「ホタルの飛び交う町作り」を目指しており、ホタルを保護するため子どもたちを加えて分布調査をするとともに、養殖・育成をも推進している。なおホタルを養殖し、その生態を研究している所が町内に2ヶ所あって、ふれあいの森の「養殖場」がその1つ、他の1つは中学校にある。

同町は、89年（平元）に環境庁より小動物生息環境保全地区として「ふるさといきもの里」に選定されたこともあり、豊かで美しい自然環境に町民は深い関心を寄せている。

所在地 知多郡阿久比町大字板山字比沙田78
☎ (0569) 48-8431 無料（一部有料・養殖場展示室見学要予約）
アクセス 名鉄「坂部」駅
[参考資料] リーフレット類（同町刊）

岡崎市南公園 おかがきしみなみこうえん

1931年（昭6）、岡崎市と岡崎村の合併条件により開設され、以後1985年（昭60）までに現在の施設が整備されてきた。約156,000m²のなかには池を中心に遊園地・プール・運動場・交通広場などがある。なかでも交通広場は、来園者に夢と情操を豊かにする遊び場や交通知識、道徳心を身につけてもらうとうと、岡崎市が設置した。

緑豊かな自然環境はそのままに、観覧車や飛行機の乗り物エアファイター、動物のぬいぐるみに乗るサファリペットなど、親子で楽しめる遊具も多くある。交通広場では、信号機などの交通安全施設を配置したミニ市街地のなかで、ゴーカートや自転車に乗りながら、楽しく交通ルールを学ぶことができる。また、市内の小学3年生を対象とした「交通教室」が開かれ、交通ルールや自転車の乗り

方などを、学ぶ場としても利用されている。
そのほか、2月中旬ころから176本の梅林公園の紅梅・白梅も楽しめる。

所在地 岡崎市若松町字萱林1-1
☎ 遊園地 (0564) 52-9095(乗物有料)
☎ 交通公園 (0564) 51-4426
アクセス JR「岡崎」、または名鉄「東岡崎」・
バス「若松栄町」、または「南公園北」
[参考資料] リーフレット類(同公園刊)

愛知県民の森 あいちけんみんのもり

明治100年を記念して、広く県民の人びとに森を解放し憩いの場として利用してもらうため、1970年(昭45)に愛知県が開設。約572万m²の広大な山林のなかにつくられた大型レジャー施設である。キャンプ場が3ヶ所、オートキャンプ場、芝生広場など大小広場が4ヶ所、全長25kmのハイキングコース、展示林、記念林があり、そのほか会議棟や、宿泊施設などもある。

年間を通してハイキングに適したところで、キャンプ場は900人が収容できるテントやバンガローのほか、雨天の際に利用できる催事場が備えられている。ハイキングコースは幾種類もあって、目的と時間に応じてさまざまなコースが設定できる。とくに夏に川の水をせき止めて作る、幅20m長さ150m深さ80~90cmの「水遊び場」が、子どもたちの人気を集めている。

また森や木材にちなんで、「県の木」林・「生活樹木」林・「木材生産」林などの展示林や、森のはたらき、木を育てるしくみ、県民の森のことが学べる「森の展示館」もある。

所在地 南設楽郡鳳来町門谷字鳳来寺7-60
☎ (05363) 2-1262 無料(施設利用は要予約、有料)
アクセス JR「三河槇原」

[参考資料] リーフレット類(同管理事務所刊)

愛知こどもの国 あいちこどものくに

1974年(昭49)に児童の健全育成を推進するため、愛知県が県政100年を記念して建設。100万m²に及ぶ大規模な児童総合公園である。なかには、二つの丘があり、子どもたちは自然のなかで工夫しながら存分に遊ぶことができる。「子どもと自然」「子どもと親」「子ども同志」の対話ができる空間作りを試みている。

「あさひが丘」では、130mの巨大遊具ドラゴンや「イカダ乗り」「アリ地獄」での冒険遊び、「ゆうひが丘」では、ゴーカートの運転やSLこども汽車に乗ったり、放牧されたロバ、鹿、山羊に出会ったり、うさぎ・子鹿・子羊などに触れたりすることもできる。また催しとして、竹のふうりんや舟を作るなどの創造的な工作教室や、親子でのキャンプ、「水中宝さがし」「ウナギつかみ」「竹の子掘り」など、楽しい行事が多く準備されている。なお三河湾国定公園地域にあり、敷地内にアスレチックコース、ハイキングコースもいくつもあるので、一日では回りきれないほどである。

所在地 幡豆郡幡豆町大字東幡豆字南越田3
☎ (0563) 62-4151 無料
アクセス 名鉄「こどもの国」駅

万場調整池周辺公園 ばんばちょうせいちしゅうへんこうえん

豊川総合用水事業は、1980年(昭和55)に、豊橋市を中心とする東三河地域と静岡県湖西市に用水の安定供給を行うために発足した。万場調整池の建設はそのなかの1つ。この調整池は、豊橋南部の田園地帯にあり、総

貯水量 500 万 m³、長さ 1032 m・幅 362 m の長方形の広大な人口ダムで、渥美半島へ水を送る豊川用水の東部幹線水路と接続している。

調整池と周囲の空間を利用して 1992～5 年に豊橋市によって周辺公園と「水の展示館」が順次開設された。公園には、4 つのゾーンがあり、アスレチックのできる「花と冒険ゾーン」、夏には豊川用水のミニチュア版の流れで水遊びのできる「水と緑のゾーン」、「自然と農業ゾーン」、「ふれあいと健康ゾーン」がある。「水の展示館」では、宇連ダムから渥美半島まで流れる豊川用水の模型や、水についてのクイズやデータをビデオや展示で解説し、貴重な水について多面的に理解をはかっている。

所在地 豊橋市西赤沢長字大坂 993
☎ (0532) 51-2645 (豊橋市公園緑地課)
無料
アクセス 豊鉄「大清水」駅・バス「富士見団地」
【参考資料】 リーフレット類 (同公園刊)

〈その他の部〉

野外民族博物館リトルワールド やがいみんぞくはくぶつかん りとるわーるど

世界の諸民族の世界観やさまざまな日常生活のありかたについて、文化人類学・民族学の観点から正確で親しみやすい情報を提供する施設として、15 年の準備期間を経て、1983 年 (昭 58) に名古屋鉄道(株)によって開館。緑豊かな愛岐丘陵にあり、敷地面積は 123 万 m²。主な展示施設には面積が 13,000 m² の本館展示場と一周 2.5 km の周遊路に沿って配置された野外展示場がある。

本館展示場では、〈進化〉〈技術〉〈言語〉〈社会〉〈価値〉という 5 つのテーマで構成された部屋に、リトルワールド収集資料 4 万点のうち、世界 70 ヶ国約 6,000 点の生活用具と標本資料を展示するとともに、諸民族の生活を約 120 の映像を通じて紹介している。

一方野外展示場では、世界 5 大陸より現在 22 ヶ国 33 施設の家を移築・復元し、実際に使用されていた生活用具もいっしょに展示して、個別の民族の家とくらしを紹介している。

とくにドイツバイエルン州の村にある、民家「メルヘン バルト」、2 階にはくるみ割り人形、煙出し人形などドイツのおもちゃが展示しており、子どもの興味をひきつける。なお、子ども用の民族衣装も数カ国用意されているので、試着することもできるし、民族料理・スナック類も賞味できる。

こうして子どもたちは、「世界一周探検クイズ」「パスポートスタンプ」なども利用すれば、より楽しみながら展示施設を見学一周し、人間と文化について学ぶとともに、国際的な視野と感覚を養うことができる。そのほか、中国の獅子舞、ロシアのポリショイバラエティーなど、随時実施される民族芸能も鑑賞できる。

また、アメリカの先住民の砂絵やインドネシアのろうけつ染めなどの世界の工芸品をつくる「おもしろ体験クラブ」や、友の会ジュニア会員向けの催しもある。

所在地 犬山市今井字成沢 90-48
☎ (0568) 62-5611 有料
アクセス 名鉄「犬山」駅より名鉄バス利用 有料
【参考文献】 『リトルワールドガイド』『リトルワールドガイドブック』(同刊)

愛知県警察広報センター あいちけんけいさつこうほうせんたー
コノハズクひろば このはずくひろば

警察に対する正しい認識および理解と協力を深めるために、1994年（平6）に警察本部北館（総合科学センター）が新設されたとき、従来の見学内容をさらに充実させて、愛知県警察本部により開設。

「コノハズクひろば」は、広さがおよそ230m²あり、4つのゾーンから構成されている。なかでも「ふれあいゾーン」の「マルチ映像コーナー」では、警察の活動を迫力ある大型画面でみることができ、クイズに回答したり、似顔絵を作成しながら捜査活動の模擬体験をすることができる。また同じゾーンの「交通安全コーナー」では、運転シミュレーターで実際に車の運転を体験し、安全運転を学んだりできる。さらに「くらしの中の警察ゾーン」では、警察官の制服・拳銃・手錠などの展示に加え、展示してある白バイに乗ることができる。なお警察本部見学では、通信指令室・交通管制センターなどが見学できる。

所在地 名古屋市中区三の丸2丁目1番1号
愛知県警察本部北館

☎ (052) 951-1611（内2144） 無料
（本部見学は要予約）

アクセス 地下鉄「市役所」駅

名古屋市動物愛護センター なごやしどうぶつあいごせんたー
愛護館 あいごかん

名古屋市動物愛護センターは、1951年（昭26）に狂犬病予防法による犬抑留所として設立されて以来、野犬の捕獲・収容・処分を行ってきたが、74年（昭49）より動物愛護業務を開始、85年（昭60）には愛護館を新設して愛護業務を独立、強化させた。

平和公園の一角、東山動物園のコアラのた

めのユーカリ園に隣接した緑の多い静かな場所に位置し、屋外には子犬にさわられる「ふれあい広場」や、イヌ・ネコ展示舎、ピクニックのできる「芝生広場」がある。館内は、イヌとネコを紹介するミニ博物館となっており、「楽しみながら体験できる」をテーマにした展示室・図書室・相談室があって、誰でも自由に利用できる。芝生広場や2階ホールを使って幼児・児童の団体を対象に「なかよしワンワン教室」も開かれており、月1、2回「子犬をさしあげる会」を開いて、「ふれあい広場」の子犬を譲渡している。動物とのふれあいが子どもたちの心に優しさや癒しを与えてくれることは、同センターに寄せられた子どもたちのおびただしい数の手紙を見てもわかる。

所在地 名古屋市千種区平和公園二丁目106
☎ (052) 762-0380

アクセス 地下鉄「本山」・市バス「自由が丘」
無料

【参考資料】 パンフレット・リーフレット類
（同センター刊）

名古屋海洋博物館 なごやかいようはくぶつかん
南極観測船ふじ なんきょくせんふじ

「親しまれる港づくり」の一環として、市民と港がふれあう場を提供するために、1984年（昭59）に名古屋港ポートビルの主要施設として3・4階に設置され、同ビルの開館と同時にオープン。翌85年には「南極観測船ふじ」が、ポートビルのかたわらに名古屋海洋博物館の実物資料（南極の博物館）として当時の姿のまま永久係留された。設立は名古屋港管理組合。

名古屋海洋博物館では、名古屋港の役割とその生いたちをはじめ、海運・貿易・海洋・船舶などについて、「名古屋港の姿」「海と船」

「港をつくる」の3つコーナーに分かれて展示・紹介している。見る・聞く・触れるの要素をふんだんに取り入れている。

小学校3年生から6年生の社会科のなかに港に関連する内容があるので、学習という観点からも見学することができる。対岸には名古屋港水族館*もある。*項目参照

所在地 名古屋市港区港町1-9

☎ (052) 652-1111 有料

アクセス 地下鉄「名古屋港」駅

[参考資料] 『名古屋海洋博物館展示あんない』
(同博物館刊)、パンフレット類
(名古屋港文化センター刊)

ている。そのほか、南陽プールに温水を供給し、余った電力は電力会社へ売却している。

子どもたちは、ビデオで工場全体の機能を把握した後、収集車のごみを投入する「投入ステージ」や、ごみが22,500 m³ 入る大きな「ごみピット」「灰ピット」「中央管制室」での作業の様子を実際に見ることができる。それとともに自分たちが出すごみについて処理の面から考える良い機会ともなる。

所在地 名古屋市港区藤前2-101

☎ (052) 303-0700 (団体のみ受付、要予約)

アクセス 地下鉄「築地口」駅からタクシー、または名古屋駅からバス「南陽町藤前」

[参考資料] パンフレット類 (同市刊)

名古屋市新南陽工場 なごやしinnanryoukoujou

市民生活や都市活動から生じる「ごみ」をいかに処理するかという問題は、私たちが直面している身近な問題であり、環境保全の観点からも重要である。同市のゴミの量は、一日に約2,750トン、1年で約100万トン(96年)にのぼる。同市は、ごみの減量・リサイクルに力を尽くす一方、増加する可燃ゴミについては、焼却設備の充実・整備を計っている。焼却施設は、改築中の1ヶ所を含めて市内に5ヶ所あり、24時間稼働している。

なお新南陽工場は、最大1,500トンの焼却能力を有する国内でも最大級の清掃工場で、旧工場のすぐ横に97年(平9)に完成。ごみ焼却設備・ごみクレーンなど随所に高度な自動化システムを採用している。公害防止にはとくに力を入れ、最新鋭の設備を備え、排ガス・ばい塵・臭い・排水、およびダイオキシンについても万全を期している。また、ごみ焼却の余熱を有効に利用して高出力の発電を行い、工場内の必要な電力をすべてまかなっ

— 図 書 館 —

尾西市児童図書館 びさいしじどうとしょかん

1980年(昭55)市川たま(房枝の姉)の遺族からの寄付に基づいて、尾西市が児童図書館を開設。86年(昭61)には電算による貸出しを開始。90年(平2)より1人貸出し点数10冊となる。蔵書数は現在、児童書数38,200冊、紙芝居約800部、CD約730枚などを所蔵。近年では年間約16,000の子どもたちが利用している。なかでも、その生涯を女性の地位向上に捧げた、郷土出身の市川房枝のミニ・コレクションがあり、子どものための著作・伝記類も含まれている。

開設当初、故人の意志で児童文化施設として発足したが、地域の児童人口減少に伴い利用者が減り、83年(昭58)には尾西市立図書館会館として、一般図書コーナーをも設置した。

通常の資料貸出のほか、定例としてお話し会・工作会などの「子どもの集い」などがあり、また幼児期から本に親しませるため、市内の保育園と提携して、園児たちのクラス訪問を受けている。

所在地 尾西市明地字上平 33-1

☎ (0586) 69-7429

アクセス JR「尾張一宮」駅、または名鉄「新一宮」駅・バス「朝日東小学校前」

愛知県芸術センター 愛知県図書館

あいちけんげいじゅつせんたー
あいちけんとしょかん

1991年（平3）、前身の愛知県図書館の老朽化などに伴い、現在地に移転開設された。「県民に開かれた図書館」「資料情報センターとしての図書館」「県内の市町村図書館へのバックアップを行う図書館」「愛知芸術文化センターの一翼を担う図書館」を基本的性格として、広く県民の要求に応え、サービスを提供することをめざしている。地上5階地下2階、延床面積約2万㎡に現在約92万冊（蔵書能力160万冊）、雑誌約600誌、新聞約180紙を所蔵している。

児童図書室には、専任職員がサービスに当たっており、月毎の新刊本リスト、「じどうしつだより」（年4回）の発行、参考調査のための種々なツール作り、3ヶ月毎にテーマコーナーを設置、映画会、読書クイズなども行っている。同室の一角には、児童図書研究資料室があり、児童文化・文学、児童図書館、読書指導などについての研究書のほか、諸外国の絵本・読物・雑誌・研究書も備えられている。

所在地 名古屋市中区三の丸1-9-3

☎ (052) 212-2323 無料

アクセス 地下鉄「丸の内」駅

名古屋市鶴舞中央図書館

なごやしつるまい
ちゅうおうとしょかん

1923年（大12）に市民の学習の場として「市立名古屋図書館」が設立された。64年（安政11）には「名古屋市鶴舞中央図書館」となり、市内の図書館の中心となる。84年（明17）に改築され、地下1階、地上3階で約90万冊の蔵書を持つ大規模図書館となった。

97年（平9）現在で総蔵書数約93万冊、そのうち児童書数約85,000冊（内絵本約18,000冊）。なお、館内には研究者のための児童図書研究室があり、和洋の作品・文献など約1万冊が常置されている。

開設当初より児童奉仕にも力を注ぎ、読書普及・おはなし会などの活動を積極的に実施、現在もボランティアの協力により、ストーリーテリング・紙芝居・人形劇など、多くの行事を定例的に実施している。また親を対象に子どもと本に関する講座を設けたり、児童文学・児童奉仕に関するレファレンスにも応じている。専任司書2名、「子どもに読書の喜びを」をモットーに、児童奉仕全般の仕事に携っている。

所在地 名古屋市昭和区鶴舞1-1-155

☎ (052) 741-3131 無料

アクセス 地下鉄・JR「鶴舞」駅

みどり子ども図書館

みどりこどもとしょかん

佐藤宗夫が亡き妻への供養と、すべての子どもに〈読書の喜び〉を伝えたいという志から、私財を投じて1986年（昭61）に開館、「本のある遊び場」として開放されている。現在蔵書は絵本・児童書・紙芝居など約25,000冊。司書が月平均50冊ほど選書し、乳幼児からヤング・アダルト向けのものまでそろえて

いる。11年間で貸出総数は約506,000、登録者は11,000人を越えている。

子どもたちは、かるた、人形遊び、なわとび、おにごっこなど、館内や庭での遊びを通して、まず司書との交流を深め、遊びの延長として本の楽しさに触れる。司書が臨機応変に、個人的あるいはグループごとにブックトークや読み聞かせを行い、子どもと本を結びつけ、本好きの子どもを増やしている。

工作遊び「みんなであそぼう」「おはなし会」「なつやすみスペシャル」などの行事が催されている。登録さえすれば、だれでも利用できる。

所在地 名古屋市中川区富田町新家字横枕 612
-1

☎ (052) 431-8814 無料

アクセス 市バス「千音寺荘」

[参考文献] 『みどり子ども図書館の10年』
(同館刊)

新美南吉記念館 にいみなんきちきねんかん

半田市制55周年と南吉生誕80周年を記念して、1994年(平成6)に半田市によって開設。館は郷土出身の作家新美南吉の代表作「ごん狐」の舞台となった〈中山〉に建てられている。

南吉は1913年(大2)に生まれ、43年(昭18)に逝去、その短い生涯のなかで〈生〉を燃焼させ、すぐれた童話・童謡のほか、短歌・俳句・小説・翻訳などを残した。この記念館では南吉の文学作品のほか、南吉と関わりのある郷土の資料や国語教育資料などを収集、人びとが郷土性豊かな南吉文学に接し親しむことを目的としている。記念館は、15,065㎡の敷地に、地上1階地下2階のグレー一色のユニークな建物で、波のように連

続したアーチを描き屋根に芝生をのせ、建物の半分以上が地中に埋没している。そして岩^{なべ}滑地域の田園風景に調和している。またその背後には「童話の森」がひらけていて、里山の自然に親しみながら散歩できるようになっている。

館内の展示室には南吉の生涯が9つのブロックに分けられ、写真・図表・解説を用いたパネルと、自筆原稿・日記・手紙・スパルタノート・遺書などが展示されている。また「ごん狐」や「手袋を買いに」などの物語を再現したジオラマやビデオシアターなどが備えられている。

図書閲覧室には、南吉の全集・絵本・研究書のほか、南吉研究に役立つ資料があり、収蔵庫には約3000枚の自筆原稿・日記・手紙・賞状などの遺品類が収蔵されている。

子どもたちとの関わりでは、南吉の生涯をしのび、南吉文学に親しめるばかりでなく、記念館の催しにも参加できる。四季を通じてのバードウォッチング、春の七草観察会、折り紙や人形の絵付け教室、〈子どもの日〉の「語りを聞く会」、秋の彼岸花の季節でのスタンプリナーなどが準備されている。「ごん狐」が小学校4年生の国語教材になっているので、遠足や社会見学も多い。なお、1988年(昭63)より半田市教育委員会と共催で、「新美南吉童話賞」を創設、定期的に「記念館だより」や「研究紀要」、新美南吉童話賞入選作品集の「赤いろうそく」などを刊行している。

所在地 半田市岩滑西町1-10-1

☎ (0569) 26-4888

アクセス 名鉄「半田口」駅

[参考資料] パンフレット類(半田市教育委員会刊)、「新美南吉記念館だより」
(同記念館刊)

金沢ヒューマン文庫 かなざわひゅーまんぶんこ

1993年（昭68）、郷土出身の教育評論家金沢嘉市の遺族から寄贈をうけ、蒲郡市立図書館のコーナーに「文庫」を開設、人間の尊厳を重んじた嘉市の意志に添い、「ヒューマン文庫」と名づけられた。

金沢嘉市（1908～86）は、子どもの人権を重視し民主主義教育を実践した教育者で、69年（昭44）に小学校長を退職後、講演活動に従事、78年（昭53）には子どもの文化研究所長となって〈人権〉〈平和〉〈自然〉を主張。テレビ・ラジオにも教育評論家として出演した。

この文庫には、嘉市の著書・雑誌約2100冊のほか、子どものための口演童話台本や〈子どもニュース〉などの放送台本、嘉市自身の授業ノート、校長日記、講演記録、手紙などが収蔵されている。なお文庫開設とともに「金沢嘉市研究会」が発足、「会報」や「叢書」が刊行されている。また1階の図書館には児童書が約68,000冊あり、児童室で定期的に紙芝居や絵本の読み聞かせが行われている。

所在地 蒲郡市宮成町1-1

☎ (0533) 69-3706

アクセス JR「蒲郡」駅

[参考文献] 榊原浩著『文学館探索』（新潮社、1997）

豊橋市中央図書館 司文庫 とよはししちゅうおうかん

1974年（昭49）、洋書事業に生涯を費した郷土出身の司忠（元「丸善」社長）の寄付に基づき、豊橋市民文化会館内の図書館に司文庫を開設。83年（昭58）の市立中央図書館の新設とともに、文庫が2階に移った。

資料収集の軸を外国の絵本・教科書・各種

図鑑・美術書とし、86年（昭61）設立の「司文庫基金」を基に、充実が計られた。現在、世界41か国からの絵本約7,600冊、80か国からの義務教育段階の教科書約9,400冊、そのほか動植物研究に役立つ世界の図鑑類や百科事典、画集などを収集し、とくに洋書を中心とした特色ある文庫となった。内容的には子どもとの関係が深い。なお1階の図書館にも児童室があり、児童書数約9万冊を有し、「おはなしコーナー」では、ボランティア・グループによる絵本の読み聞かせや紙芝居、おはなし会などが定期的に開かれている。また映画会・講演会や夏休み子どもフェスティバルも催されている。

所在地 豊橋市司根井町48

☎ (0532) 31-3131

アクセス JRまたは名鉄「豊橋」駅

[参考文献] 榊原浩著「文学館探索」（新潮社刊、1997）、「司文庫図書目録1、2」（豊橋市教育委員会刊）

— 児 童 館 —

名古屋市立中央児童館 なごやしりっちゅうおうじどうかん

児童館は厚生施設であり、児童に健全な遊びを提供して健康を増進し、情操を豊かにすることを目的として設置されている。中央児童館は、名古屋市児童福祉センター内に1971年（昭46）に創設され、相談・診断・治療・育成の4部門のなかの育成部門を担当している。各区に設置された児童館のセンターとして、全市域の児童を対象とした事業や、児童館職員の研修を実施するとともに、児童館活動のモデル的役割を担っている。

館内には遊戯室・図書室・クラブ室などが

あり、屋外には、芝生広場・交通遊園・野外ステージ・デイキャンプ場などがある。催しとしては、随時・折り紙・七宝焼などの工作教室、写生大会、バスハイク、魚釣り、キャンプなどを行っており、会員制で行うクラブ活動も実施している。集団指導としては、交通指導・集団ゲーム・母と子のつどい・デイキャンプ講習会を実施。その他の事業として、ボランティアの育成と子ども会への派遣、「館だより」の発行と、市内子ども会への配布、各区児童館行事の援助と道具・備品の貸出などを行っている。

所在地 名古屋市昭和区川名山町6-4

☎ (052) 832-6111 無料(一部有料)

アクセス 名古屋市地下鉄「いりなか」駅、または市バス「滝川町」

[参考資料] リーフレット類(同児童館刊)

愛知県児童総合センター あいちけんじどう そうごうせんたー

児童の健全育成と子育て環境づくりを総合的に推進していくための中核的な施設として、1996年(平8)に愛知青少年公園内に開館された愛知県立の大型児童館である。

①体験・育成機能(遊びのプログラムの実践など)、②開発・調査機能(遊具・遊びのプログラム開発、実態調査など)、③養成・研修機能(児童館職員の研修、ボランティアの養成など)、④普及・啓発機能(児童環境づくり推進のための活動援助、情報提供など)という4つの基本機能に分かれて運営されている。

3階建て延床面積7,600㎡の建物は、建物全体が遊具となるように設計されており、この児童館の大きな特徴となっている。ドームで覆われた巨大な「プレイアトリウム」(遊びの広場)を中心に、その周囲を各ゾーンが取

り巻くように配置され、さらにそのプレイアトリウム中央にある「チャレンジタワー」から、トンネルが何本も巡らされ、各ゾーンをつないでいる。このため子どもは挑戦しつつ〈作り、感じ、考える遊び〉を連続して体験できる。なお「チャレンジタワー」は、斜めに傾いた約25mの高さの展望塔で、二重らせんスロープ構造になっている。ゾーンには、コンピューターを駆使した「音の発見ゾーン」や「光の発見ゾーン」、疑似体験のできる「体験ゾーン森の中」やミニチュアな街を歩ける「体験ゾーンこどものまち」があり、さらにいろいろな遊びが展開できる「アトリウムゾーン」などもある。また「造形スタジオ」では、粘土や木を使った造形遊び、「クッキングスタジオ」では、簡単で意外性のあるおやつ作りなどが行われている。

こうして子どもたちは、遊具やスタッフによる各ゾーンの「遊びのプログラム」を通して、全身の感覚を十分に発揮して遊ぶことができる。またセンターでは、こうした「遊びのプログラム」が名古屋市を除く県内の児童館でも体験できるように、移動児童館を受け付けたり、「センターだより」「あぶらぶ」などを発行して遊びの情報を発信している。

所在地 愛知県長久手町熊張(愛知青少年公園内)

☎ (0561) 63-8777 有料(中学生以下無料)

アクセス 地下鉄「藤が丘」駅・バス「青少年公園」、または愛知環状鉄道「八草」駅

[参考資料] 『愛知県児童総合センター年報平成8年度』・リーフレット類(同センター刊)

瀬戸市交通児童館 せとしこうつうじどうかん

瀬戸市の中心に広がる市民公園のなかに、1971年（昭46）に交通児童遊園が開設された。90年には新しく児童館の機能を合わせ持つ交通児童館として活動を開始。「交通コーナー」では、親子で楽しみながら交通ルールを学ぶことができるように、幼児用から大人用までの自転車と足踏みゴーカートなどが用意されている。子どもたちは、ここでは運転手になって信号・道路標識を守り、横断歩道で一旦停止をして進んでいく。幼稚園児や小学生のための交通教室や、自転車教室なども行われている。

「児童館」では、子どもたちに健全な遊びを提供し、その健康と情操を豊かに育むことを目的として「児童館子どもまつり」などの年間行事と、紙飛行機などを作る制作教室やちぎり絵教室、映画会などのほか、定期的に絵画教室、母親クラブの活動も行われている。ここが瀬戸市の唯一の児童館であるため、市内10ヶ所の公民館に職員が出かけて行って「移動児童館」を開き、コーナー遊びやゲーム遊びなどを行っている。

所在地 瀬戸市上松山町2-466
☎ (0561) 48-2350 無料
アクセス 名鉄瀬戸線「新瀬戸」駅、または愛知環状鉄道「瀬戸市」駅
[参考資料] パンフレット類（同児童館刊）

刈谷市交通児童遊園 かりやしこうつうじどうゆうえん

児童に安全な遊び場を与え、健全な体力をつくり、楽しみながら正しい交通知識および道徳を身につけてもらおうと、1975年（昭50）に刈谷市によって創設された。79年（昭54）に敷地の拡張を行い、遊具なども順次増

設し現在に至っている。

園内に信号のある交差点があり、ゴーカートに乗って運転手の立場を経験し、交通安全の意識を高めることができる。またD-51蒸気機関車、名古屋の街を走っていた市電が展示してあり、蒸気機関車の運転台に乗ることができる。そのほか足でこいで進むサイクルモノレール、小型のジェットコースター、飛行機や円盤形の乗物など大型の乗物遊具が8機種、小型遊具が12台、ジャングルジムなどの遊戯施設、水遊びのできる新幹線のかたちをした噴水もある。

小学生が遠足で訪れたり、市内の幼稚園・保育園の年長組の子どもたちが、信号の渡り方などの交通ルールを学ぶ場としても利用されている。

所在地 刈谷市神田町3-47-1
☎ (0566) 22-9371 無料（一部有料）
アクセス JR・名鉄「刈谷」駅

岡崎市青少年センター太陽の城 おかざきせいせいしょうねん せんだい・たいようのしろ

1979年（昭54）に、児童や青少年の健全育成と余暇活動、芸術文化活動を行う拠点として、岡崎市が建設した児童センターと、青少年センターの複合施設である。名称どおり西洋風のお城の外観をもち、1階を児童センター、2階から5階までを青少年センターとした約2,000m²の建物である。

1階の児童センターには、児童図書室・遊戯室・工作室があり、小学1～3年対象の造形教室や、保育園・幼稚園の年長児対象の「ひまわり教室」が開かれている。遊戯室では、親子で遊具・教具を使用して自由に遊ぶことができる。2階以上の青少年センターには視聴覚室・音楽ライブラリー、300人収容

のミュージックホール、音楽研修室などがある。ただし利用できるのは、岡崎市内に在住、在学する児童・在学在勤青少年およびその指導者のみとなっている。

所在地 岡崎市明大寺町1-2
☎ (0564) 24-2535 無料
アクセス JR「岡崎」駅、または名鉄「東岡崎」駅・バス「明大寺」
[参考資料] リーフレット類(同太陽の城刊)

— ホール —

安田火災人形劇場 ひまわりホール

やすだかさいにんぎょうげきじょう
ひまわりほーる

名古屋地域には、からくり人形の伝統がありすぐれた制作者もいる。それに、「むすび座」などプロの劇団だけでなくアマチュアの人形劇団も多かったが、それまで人形劇専用のホールがなかった。1988年(昭63)に「世界の人形劇フェスティバル」が名古屋で開かれ、その後、安田火災ビル19階の約340㎡のスペースを地域の文化に貢献させたいという要請があり、ここにひまわりホールが翌89年(平元)安田火災海上保険(株)によって開設された。

ホールの企画・運営のために「愛知人形劇センター」が生まれ、プロ・アマを含め人形劇に関心のある人や団体が会員として参加した。97年度現在で個人会員が約400人、団体会員が80団体となっている(97年度)。

ホールでは、愛知人形劇センターが県外や海外の人形劇団を招致するなどして、年間約20回人形劇が開催されている。その他の日には、会員や外部団体も使用している。情報誌「あっぷ」を発行。また92年(平4)から毎年「脚本コンクール」が行われ、受賞作品が

当ホールで上演されている。

所在地 名古屋市中区丸の内3-22-21
☎ (052) 953-3717 有料
アクセス 地下鉄「久屋大通」
[参考資料] 「あっぷ」(愛知人形劇センター刊)

うりんこ劇場 うりんこげきじょう

劇団うりんこが、劇団自体の稽古場、公演の場として、さらに「地域の文化センター」としての役割を果たそうと、1986年(昭61)に小劇場を設立。鉄筋コンクリート3階建て、延べ面積660㎡、ホール160㎡で、ホールは自由に舞台と客席が設定できる構造となっており、目的によっていろいろな使い方ができる。折りたたみ椅子ならば80脚、平土間として利用した場合には160人収容可能。劇場では子どもを対象に劇団うりんこの公演をはじめ、他の国内劇団、ドイツ・フランス・韓国などの外国劇団の児童劇・人形劇・パフォーマンスの上演やコンサートを催している。さらに、子どものためのドラマスクールや落語や詩を楽しむ会、親や教師を対象にした児童文学講演会などの催しも開いている。また劇場を、子どものバレエやピアノの発表会の会場として利用することも、リハーサル室、会議室だけを個別に利用することもできる。

所在地 名古屋市名東区八前1-112
☎ (052) 772-1882 有料
アクセス 市バス「宮根」
[参考資料] リーフレット類(同劇団刊)